

茶室キット 無限の無

より身近なものとして、茶室のプレファブリケーション

山崎裕子

制作主旨

国際化社会といわれている現在、個の確立というものが重要になってくるだろう。国際化社会に出ていくためには自国を知ることが必要になるからである。日本には「坐る文化・沓脱ぎの文化」がある。また、空間の質も西洋のそれとは異なっている。これらを体験できる場が茶室である。茶室というのは日本のインテリアデザインの原型であり、日本人が持つ「無常感」を空間であらわしたものである。

日本の空間の特性として、

- ・木や紙のような柔らかい仕切り
- ・縁側のような外でも内でもない空白の領域
- ・坐って生活していることから生じる水平感覚
- ・薪能・野点などにみられる仮設文化
- ・露地や参道といった通過儀礼の空間の5つがあげられる。

これらの日本固有の空間を老若男女が安価で簡単に体験できるように、茶室のプレファブリケーション化を提案する。

草庵茶室を10席取り上げ、それらをともに柱、壁、床、天井の規格化を行う。

パネル化をするにあたり、畳は京畳を、炉は12cm(1尺4寸)四方のものを使用する。柱、壁、天井、床は、安価で簡単に提供できるように平均値を求め、規格化を行う。

講師評：片桐正夫

中世室町政権の弱体化は、いわゆる戦国時代を招来し、その結果、様々な分野の規制から解放された。

建築の世界も例外ではなく、木割法は規矩術に発展、材の規格化、寸法体系による設計方法を普及させ、建築に新しい秩序を与えた。座としての畳も規格化され、空間規模を表す規準材となった。

草庵茶室はこうした流れの中で生まれた。そのため利休以来、茶室のプレファブリケーションを試みた事例は少なくない。

山崎案は、現代人の感覚でこの問題にチャレンジしたものである。

山崎は

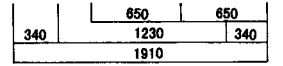
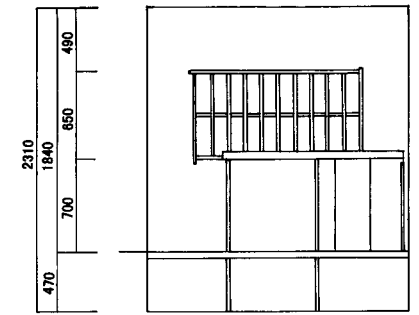
1. 時代の評価を得た10席を選定。ここから理想とする茶室の普遍的寸法体系を見つけ出すこと
2. 既存の建築内部に簡単に高いレベルの茶室を創ること
3. プレファブリケーションのための技術的工夫提案

の3つの問題に、具体的には取り組んだ。

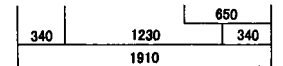
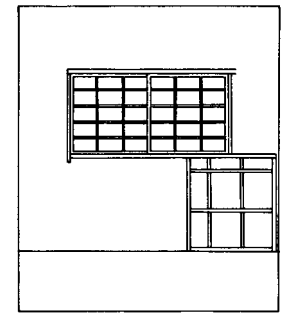
まだまだ多くの問題をはらんではいませんが、目指す方向、テーマ、そして提案には注目に値するものがある。今後の精進を期待したい。



四畳半 又隠風

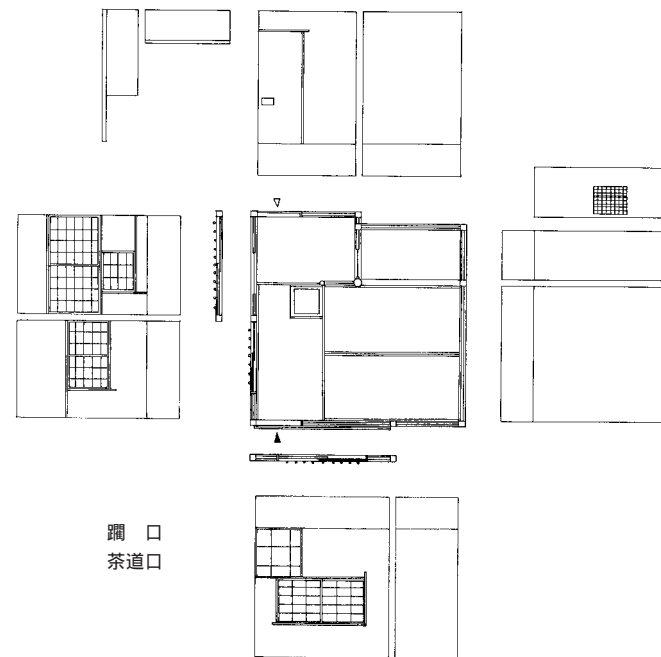


内部



外部

壁パネルA Type



平面・壁パネル



三畳台目 燕庵風



二畳 待庵風



三畳台目 金地院八窓席風



三畳台目 不審庵風